

2025年8月6日 Vol. 33(番外編)

[illegible]

この通信は「インターネットに載っていない情報の発信」を目的としているため、旅行に関する記事はあまり多くありません。しかし今回は、ナミビアの中でも個人的に少し特別な思い出のある場所を紹介させていただきます。

それがナミビア最大の観光名所——“ナミブ砂漠”です。ここが特別な理由ですが、自身の修士論文の研究テーマが“砂丘”に関することで、ナミビアという国を知る前から、ナミブ砂漠内の有名な砂丘であるデューン 45 の存在を知っていたからです。研究では、空間を規則的な格子によって一様に離散化し、本来は連続体である流体を格子ボルツマン方程式に従い時間発展する、格子点上を移動する離散化された仮想粒子の集合と見なし.....この説明を始めると Vol.120 まで行きそうなので、この辺で止めておきます(^-^);。



写真1：インターネット上のデューン45

(<https://www.world-surfing.jp/blog/2015/05/dune45.html> より引用)



写真2：実際に見たデューン 45

とりあえず、砂丘の研究をやっていました。心の底からやってよかったと思いますが、当時は本当に、本当に大変でした(ー-;)。その過程で何度も砂丘を検索することになりますが、ほぼ確実にデューン 45 にたどり着き、上の写真 1 のような画像に出会います。それからというもの、せっかくだからネットではなく、肌身でそのスケールを体感してみたいとずっと憧れていました。ただ、日本からは距離があったためどこか諦めもありました。

そしたらナミビアへ渡航することになり、長い間画面越しに見てきたその風景が、写真2のように眼前に広がる瞬間を迎えることができたのです。約10年越しに夢が叶った瞬間です。自身からしたら高校球児という甲子園のような場所で、これには興奮を隠せませんでした。

ということで、ナミビアに渡航したら高確率で行くであろう観光地“ナミブ砂漠”について2回に渡ってお伝えします。なお、この【前編】ではナミブ砂漠の地理関係や砂漠内の国立公園についてご紹介します。

ナミブ砂漠の地理関係

アンゴラ共和国



南アフリカ共和国

図1：首都 Windhoek とナミブ砂漠内の主な観光名所の位置関係

左の図1は、首都 Windhoek[✕]とナミブ砂漠内の主な観光名所の位置関係を示したもので、実はナミブ砂漠とは正式には大西洋沿いの、南は南アフリカ共和国から北はアンゴラ共和国までの一帯を指すそうですが、一般的には[■]で囲まれた領域を指すことが多いです。中でもソーサスフレイ[★]はザ・ナミブ砂漠のような場所で、近くにデューン45やデッドフレイ、高さが300m以上ある砂丘ビッグ・ダディ等（すべて次回紹介）有名どころがあるため、砂漠を訪れる観光客は皆ここを目指します。ちなみに現地語で Sossus は「行き止まり」、Vlei は「湿地・浅い湖」という意味らしく、合わせて「水が行きつく場所」といった意味になるそうで、現に乾いた白い塩湖の上に赤い砂丘が連なる風景で有名です（写真3）。

余談ですが、ナミブ砂漠の砂が赤い理由は鉄分を含む砂粒が長い年月をかけて酸化したためです。身の回りにある錆びた物からも分かる通り、鉄は酸化すると赤褐色になります。ここでは砂にも同じことが起こっており、世界最古の砂漠と言われるほど年月が経過しているからこそ写真のような深い赤色になります。

ナミブ砂漠のツアーは、ほとんどが図1の首都 Windhoek より出発しており、ツアー会社にも依りますが、朝に首都を出発できると最短で1泊2日で組めます。だいたい片道5時間ほどで、朝8時頃に出発し、翌日夕方に首都に戻って来るスケジュールになります。ただ、道中は砂漠に近い場所では未舗装の道路を通らなければならない（写真4）、その一方で現地ドライバーはお構いなしに日本の高速道路のように飛ばします。そのため、車酔いしやすい方は乗車前に酔い止めを服用しておくことを強く推奨します。また、このような道であるためパンクや脱輪（写真5）することも珍しくありません。レンタカーを利用する場合は、スペアタイヤの携行や4WDにする等、ガソリンを含めて車を事前に点検しておくことが重大事故の未然防止に繋がります。



写真3：ソーサスフレイ内の赤と白のコントラスト



写真4：首都～砂漠間の未舗装道路



写真5：脱輪

国立公園について

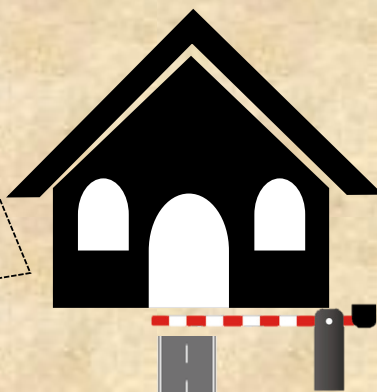
デッドフレイ



ビッグ・ダディ



デューン45



内部ゲート

開 05:15
閉 20:45

ロッジ

キャンプ



メインゲート

開 06:15
閉 19:45

図2：国立公園の概略図

砂漠内の名所は国立公園として保護されているため、24 時間訪問できるわけではありません。前ページ図2の通り、デューン 45 やデッドフレイ、ビッグ・ダディにたどり着くためには、2つのゲートをくぐらなければいけません。最初がメインゲート、次が内部ゲートです。メインゲートの開閉時間はおおよそ日の出と日の入りの時刻に設定しており、内部ゲートはそれより1時間早く開門し、1時間遅く閉門するようになっています。そのため、例えばその日、日の出はデューン 45 から見たい、ビッグ・ダディにその日1番に登頂したい等の希望があれば、メインゲートと内部ゲートの間のロッジやキャンプサイトに宿泊することで、日の出1時間前に公園内に入ることが可能です（写真6）。



写真6：05:15の開門



写真7：砂漠の星空

また、名所以外でも、砂漠は周辺に明かりが少ないため、時期はあれど、[Vol.8](#)の通り星空が本当に綺麗に見えます。

写真7は年末の星空ですが、おそらく標高が高いことも関係しているのか、星が日本より近くに感じ、手を伸ばせばつかめそうな距離にいました。プラネタリウムに迷い込んだかのようで、視界のすべてが無数の星々で埋め尽くされており、それはただ美しいだけでなく、神秘的な静寂さにも包まれていました。人生で1・2を争うほどの星空で、この景色は今でも鮮明に覚えています。新月の時期に訪れると綺麗に見ることができますよ。次号では、内部ゲートのその先の名所と訪れてみての感想を紹介します。

AFRICAN SAFARI

Vol.6

砂漠にちなんで、砂漠で出会える動物を紹介します。

《オリックス》

日本のプロ野球でもお馴染みの名称ですが、ナミビアでは国獣に指定されており、ナミビアの国章の両脇や空軍のシンボル、政府のロゴにも登場するほど神聖な生物です。体温調節が得意で、砂漠のような水の少ない乾燥地帯でも生きていける逞しさがある一方、草食で人間に危害を加えることはありません。しかし、宮島や奈良公園にいる鹿の感覚で近づきすぎると襲われます。オリックスの肉は牛肉に似た食感と風味があり、ナミビア人に広く親しまれている食用肉の一つとなっています。



次回：番外編、「砂漠の歩き方」【後編】です。